

## オヤノコト. エキスポ 2008 公開事例検討会

### 「専門職による福祉用具の公開事例検討会」

2008年7月5日、6日 於：東京国際フォーラム

平成 20 年 8 月 10 日

全国福祉用具専門相談員協会

- ≫ 各日の内容
- ≫ アンケート集計結果
- ≫ 講師プロフィール

去る7月5日(土)、6日(日)の2日間、東京・国際フォーラム・展示ホールにおいて「オヤノコト.エキスポ 2008」(主催/バリアフリーライフエキスポ開催委員会)が開催され、福祉用具専門相談員協会では、同セミナー会場において、「専門職による福祉用具の公開事例検討会」を実施しました。これはゲスト講師が示す個別の要介護の事例に対し1ステージにつき6名の福祉用具専門相談員が福祉用具による最適な援助方法を提案するもので、今年の4月に大阪の「バリアフリー2008」で行った公開事例検討会の第二弾として実施したものです。このような事例検討会は、利用者に合った福祉用具はどんなポイントで選ばれていくのか、優れた専門相談員とはどのような人達なのかを多くの方々に知って頂くために開催しています。講師は、コーディネーター兼評価者として望月彬也氏(尙望月彬也リハデザイン代表取締役)にお願いしました。全国各地から選抜された福祉用具専門相談員が日頃の実践で培った知識、技術をもとに、提示された課題に応じて、それぞれが考える福祉用具による援助プランを提案しました。本会では、平成 20 年度の事業計画に示したとおり、本年度、福祉用具による個別援助計画の作成により福祉用具サービスの質の向上を目指すという大方針が出されています。今回の事例検討会もそうした流れの一環です。なお、各プログラムの概要は以下のとおりです。



≫ 「高齢夫婦二人暮らし 転倒を防いで安心の生活」 7月5日(土) 11:00～12:00

講師：望月彬也氏(尙望月彬也リハデザイン代表取締役、理学療法士、介護支援専門員)

発表者：斎藤裕一氏(埼玉県・株式会社ランダルコーポレーション)/水谷好美氏(神奈川県・株式会社ヤマシタコーポレーション)/嶋崎明美氏(滋賀県・有限会社メディカルブレーション)/山本隆裕氏(大阪府・総合メディカル株式会社)/川口隆氏(鹿児島県・株式会社カクイックスウイング)

内容：

取り組んだ課題は、変形性股関節症の86歳、要支援2の男性、妻と二人暮らしの事例。住居は二階建ての一軒家。屋内では1本の杖と壁を支援に歩行するが、外出での長距離歩行は困難。本人は出来ることは自分で行い、妻と公園を散歩したいとの希望もある。一方、腰痛をもつ妻は夫が転倒しづらい環境を整えたいとの希望がある。

このような事例に対して、発表者からは主に2階建住宅内での移動、外出のための玄関や駐車場などの段差解消など住宅改修案も含めた様々な意見が述べられた。事例の利用者は長年2階に寝室と書斎を構えて生活を送ってきたが、発表された援助プランでは、寝室を1階に移す案や、階段の手すりを昇りだけでなく降りにも対応できる改修案。それぞれの知識・経験に基づく、様々な援助プランの提案が行われました。また、来場の家族を介護する男性からも質問が出るなど、

一つの事例を通じて、会場全体で、その方の状態に応じた福祉用具による適切な援助が何かを考  
える機会となりました。望月先生からは、「階段は昇りよりも、降りの方が危険。普通、片側しか  
手すりがついていないが、どちらの足に障害があるかを確認して、手すりの設置を考えることが  
適切。事例の男性は、両手が使えるので、昇りでも降りでも手すりが有効に使えるので、体の右  
側にしっかりつけた方が良い。」など、発表者の意見に応じて技術的なアドバイスをされていまし  
た。また、福祉用具と介護保険に関連して、「身体機能は、加齢によって落ちてくる。福祉用具は  
将来的に導入を考えるというより、今、必要な『ジャストフィット』なもの、現状で一番使いや  
すいものを使い、身体状況が変わったら借り替える。これがレンタル制度の良さです。」と、要介  
護者の身体状況の変化と、これをカバーするレンタル制度の特長を述べられていた。

» 「進行性の病気でも自宅で安心して暮らし続けるために」 7月6日(日) 14:00~15:00

講 師：望月彬也氏(㈱望月彬也リハデザイン 代表取締役、理学療法士、介護支援専門員)

発表者：菊池徹氏(青森県・東洋シルバーサービス株式会社)/緑川浩郎氏(福島県・株式会社同仁社)/  
嶋崎明美氏(滋賀県・有限会社メディカルブレン)/大角ゆう子氏(京都府・株式会社ヤマ  
シタコーポレーション)/山本隆裕氏(大阪府・総合メディカル株式会社)/相馬岳邦氏(宮崎  
県・株式会社カクイックスウィング)

内 容：

取り組んだ課題は 59 歳の要介護 2 の男性で、妻と二人暮らし。パーキンソン関連疾患により、足  
首の関節が固くなって歩行は小刻み。バランスを崩しやすく体勢を立て直すことができないので、  
転倒のリスクが高い。住居はマンションだが、居室内の廊下は広くない。ベッドではなく、長年  
布団にて就寝。本人は、妻との散歩や理髪などの外出のほか、毎日入浴したいという希望がある。  
一方、家族としては、室内を安全に移動できる環境を望んでいる。

このような事例に対し、それぞれ考えられる福祉用具による援助プランについて意見を交換しま  
した。それらのプランには、起き上がりや立ち上がりのサポートに電動ベッドや介助バー、日中  
過ごすソファでの立ち上がりの手すり、布団からの立ち上がりのためには床面と天井を突っ張る  
用具や、電動座いすなど具体的な商品名を示した上で説明が行われました。また地震等の緊急時  
に対応するため、バルコニーに面した和室の利用を継続するプランや、トイレへの導線や居室を  
和室から洋室へ転換するプランなど、様々な意見が出されました。望月先生はこれらのプランに  
それぞれアドバイスをした上で、「様々な援助プランが出たが、どれも状況を正しく分析した適切  
な案だと思う。大切なのは、その方の状況にあった複数のプランを提示し、利用者の選択をサポ  
ートすることだと思う。それが専門職の役割。」とし、福祉用具専門相談員に求められる資質につ  
いて述べていました。最後に、「事例のとおり、進行性  
の疾患をもった方の状態は変化しますが、それだけに借  
り換えができるとレンタルは理にかなった制度です。また、  
洞爺湖サミットで環境問題が課題となっております  
が、有限な資源を無駄にしない、地球環境を汚さない、  
ごみを出さない。その点からもレンタル制度は優れてい  
ます。制度の特性をふまえてサービスの提供に努めてい  
ただきたい。」とまとめを述べていました。

(以上)



▶ 来場者アンケート集計結果

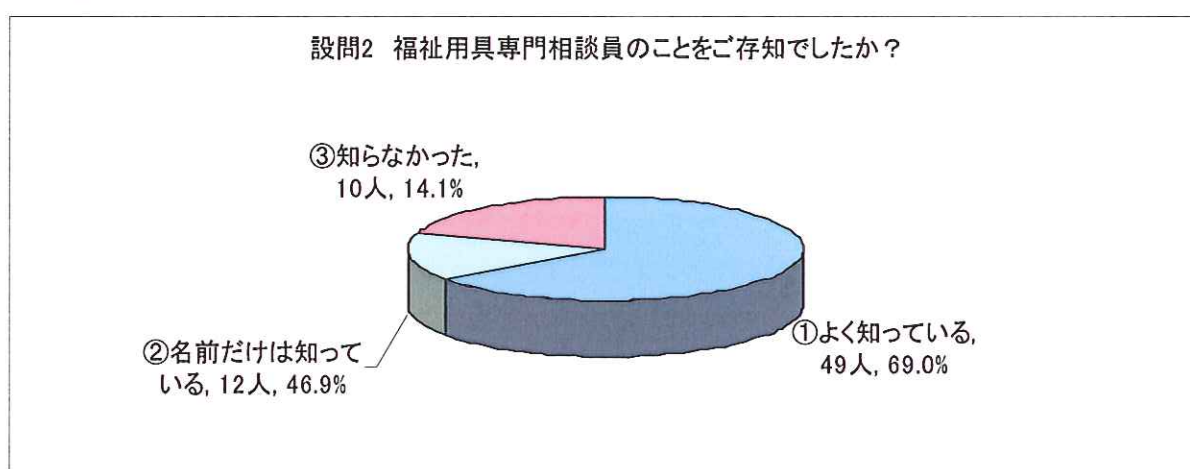
7月5日・6日の両日、ご来場の方にアンケートをお願いしました。検討会へのご感想など、今後の本会の活動において貴重なご意見を多数いただきました。この結果をふまえ、次の検討会をより実りあるものにできるよう努めたいと思います。

1. 来場者年齢・性別分布

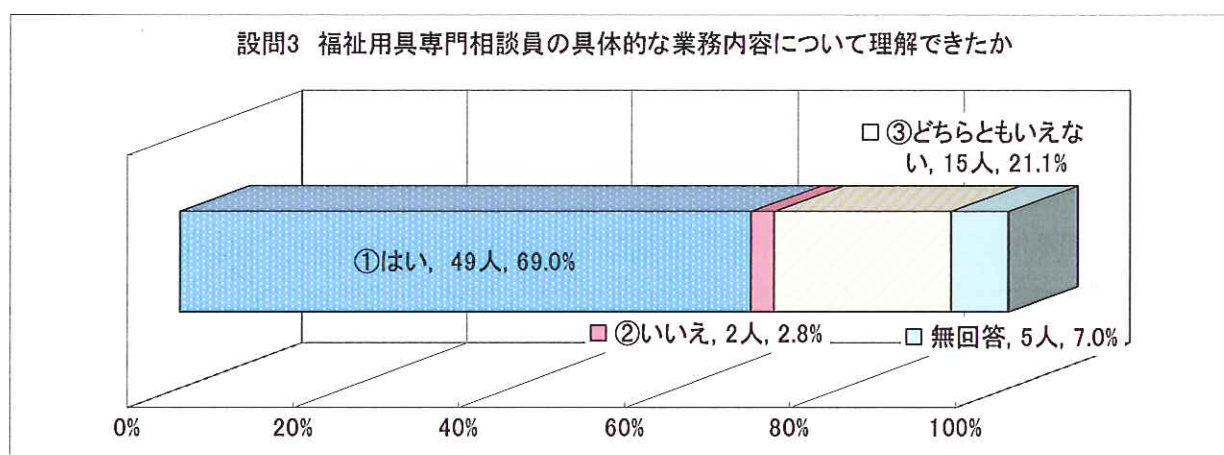
年代	30代	20代	50代	40代	70代	60代	計
人数(人)	26	14	12	10	5	4	71
比率(%)	36.6	19.7	16.9	14.1	7	5.6	100

	人数	比率
男	48	67.6
女	22	31.0

2. 福祉用具専門相談員についてご存知でしたか



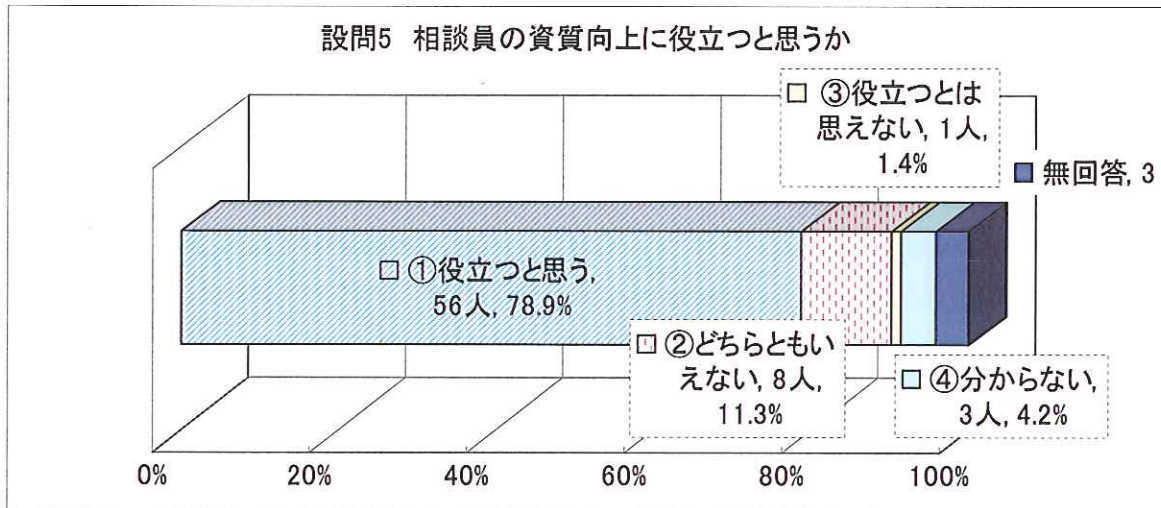
3. 本日の事例検討会に参加されて、福祉用具専門相談員の具体的な業務内容について理解できましたか？



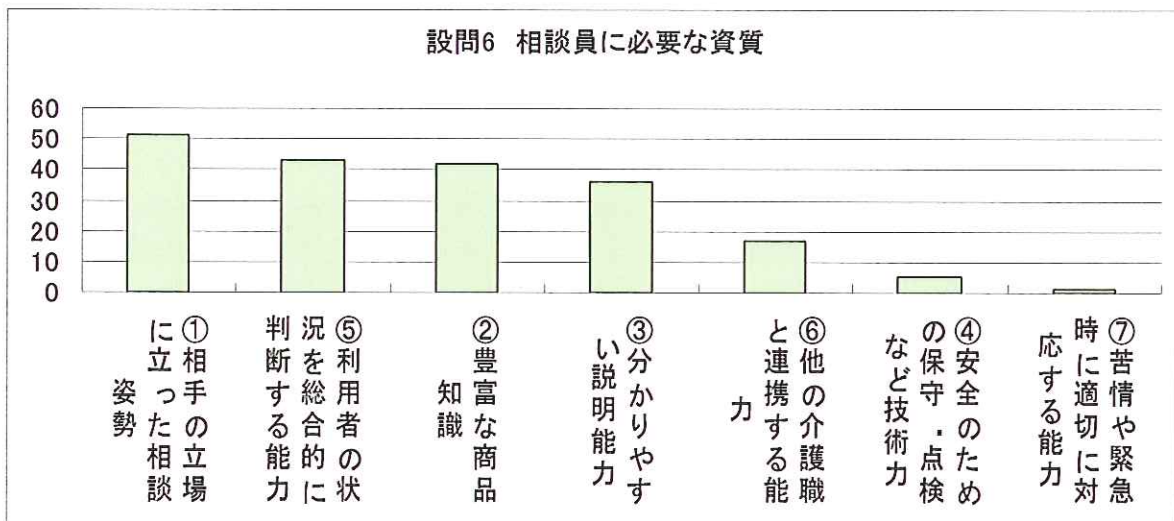
4. 本日のような事例検討会は、今後、介護保険で福祉用具のサービスを受ける際の参考になると考えますか？

はい	いいえ	どちらともいえない	無回答
63人(88.7%)	0人(0.0%)	5人(7.0%)	3人(4.2%)

5. 本日のような事例検討会は、福祉用具専門相談員の資質や能力の向上に役立つと思いますか？



6. 福祉用具専門相談員にとって必要な資質や能力とは、どんなことだと思いますか。



≫講師プロフィール

○望月彬也 [モチヅキ ヨリナリ]

(有限会社望月彬也リハデザイン代表取締役、理学療法士、介護支援専門員)

理学療法士として病院や在宅でのリハビリ指導のほか、東京都福祉機器総合センター等での活動を経て、有限会社望月彬也リハデザインを設立。福祉用具の研究・開発をライフワークとしている。介護支援専門員の資格も有し、財団法人高齢者研究・福祉振興財団等での相談業務や、研修会・講習会での講師と幅広く活動。

検討会にご参加いただいた皆様、検討会開催・実施にあたりご尽力いただいた関係者の皆様  
ご協力ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

全国福祉用具専門相談員協会 事務局 〒108-0074 東京都港区高輪 3-19-20 高輪 OSビル 9階

TEL: 03-3443-0011 / FAX: 03-3443-8800 / E-Mail: info@zfssk.com / URL: http://www.zfssk.com